令和６年度
（2024年度）

事業報告書

社会福祉法人アトリエ

目次

はじめに 3

令和６年度 社会福祉法人アトリエ　本部 事業報告 4-8

令和６年度 一から百まで堂　事業報告 ..... 9−17

令和６年度相談支援〇〇　事業報告 18

令和６年度アトリエハウス　事業報告 ..... 19−20

はじめに

まず、「はじめに」今期は、この報告書を誰に読んでもらうのだろう。と、自問しました。相手の意識がありませんでした。報告書を義務で「とりあえず」作っている事に気が付きました。反省すべき事です。

例年、理事会で役員に、評議員会で評議員の皆様に報告書をお渡しして、ホームページ等で公開する事が目的になっていました。

報告書は、法人の理念の実践への取り組みを振り返り、今後につなげるために必要な文章が本来の姿です。そして、報告書を作る際に、自分自身で一年を振り返る機会にしていました。それは、言い換えるとひとりで「とりあえず」報告書を仕上げる事に一生懸命でした。今年度も同様にこの報告書を事務員に記録を文章化してもらい、それに見合った言葉を付け加えています。

本来は、施設長を中心に各部署で年度の記録を元に振り返り、意見や反省を報告書にまとめる作業が必要です。その仕組みや時間的、精神的な「ゆとり」がありませんでした。また、昨年度まで改めるべきことを実践できないことも「とりあえず」のごまかしの法人経営で起こった結果であると気がついています。

職員は、その日その日の現場を大切にして、事業を運営しています。それに後方から経営者が支える事が重要でした。職員が法人の理念の共有や一年の振り返る機会を設けていませんでした。反省だらけです。

今年度、この報告書を役員、評議員は当然ですが、大事な仲間である職員と一緒に読み返して、次年度に向かうための足場のような活用を試みます。来年度は、報告書は、職員が自ら作れるようなサポートを試みます。そもそも諸君雇用は、仲間としての大切な関係であるという意識を持ちます。適切な仲間集めも大事です。新規事業としてグループホームの経営が始まって、理事長が多くの業務を担って綱渡り的に進んでいた事が露呈しました。利用者が生き生きと過ごせる現場を継続するためには、職員の存在は欠かせません。その職員の不安に向きあっていませんでした。今年度の報告は、節目にします。言葉だけでなく実践しやすい実務的なメッセージを意識したいと思っています。今、雇用を重要事項として積極的に取り組んでいます。

今年度、集うメンバーの魅力に職員がしっかりと向き合っている事は、日々のSNS（LNEやインスタ）で、実感しています。これからは、もっと職員が力を発揮できる法人に変わって行く事を理事長として大切にします。
もし、この言葉とは異なる言動を見受けた際は、遠慮なく教えてください。
よろしくお願いいたします。

令和７年５月１５日

社会福祉法人アトリエ
理事長　磯部　伸之

社会福祉法人アトリエ　本部　事業報告

総括

　　新規事業の共同生活援助の物件の取得や工事を経て2月に開所した。
それにより、社会福祉法人アトリエの理念の根源の「障害のある方々の存在が社会を暖かな人間関係を生み出す」を具現化した場所が生まれた。この点については、部門の報告で述べる。

　一方、他事業所にしわ寄せが生じて、職員の役割や業務内容のみではなく、精神的な不安の負荷を感じている職員へのサポート、システム構築、マネジメント面を担う機能強化の必要性が見えている。なにより、今まで、年次の事業報告書を活用できていなかった事も反省すべき点だと考える。義務として報告書を作っていた。本来、職員も一緒に法人全体の状況を把握して報告書にする方が効果がある。ます、今年度のこの報告書は、今後の取り組みの意識化や自ら考えるための資料として、６月の理事・評議員会の後に、職員研修日を設定して、職員間で確認する。そして、その取り組みを定例化する。

　本部の役割には、「法人職員の働く環境づくり」の業務があると意識した。
本部職員人材は、兼務状況であるため担うえる事務機能が低い。そこで、来期の評議員と理事の入れ替えを機に、職員の適切な雇用と育成、法人の理念に職員が合わせて行動できる法人本部の在り方として役員にも協力を求めていきたい。役員報酬については検討もすべきであろう。

　役員会を義務的な側面から、実務的な実行力が持てるような改革を始める。あわせて次期の評議員にも他法人の経営者やコンサル業務ができる人材を推薦している。法人の理念を広げられる取り組みの実効性を高める時期である。

計画の内容に対する評価　※理念/法人重点目標
「福祉の現場から、個々の創造的な感覚を研ぎ澄ませて未来に向かう」
「新規事業を軌道に乗せて、恒久的な法人への礎づくり/利用者、職員の関わりや個性を大切にする創造的な活動づくり」
→新規事業の共同生活援助はその場所として機能している。※計画で示した内容への成果はある。

今年度の行動計画の評価
法人本部　　：新規事業に向けて人材雇用・育成体制の構築
　　→人材雇用に問題がある。十分な人材の確保ができていない
一から百まで堂：職員体制と新卒職員教育、新規事業人材育成機能
　　→新規事業の開所前の準備不足が露呈
相談事業〇〇　：無理のない相談支援体制
　　→相談支援ができる人材不足（無理が生じた。）
　　社会福祉士・精神保健福祉士実習生受入
　　→理事長が多くの業務を抱えすぎて、対応の時間が不足
新規事業　　：年度内の開所ショートステイ・グループホーム
　　→事業所は無事に開所したが、理事長の現場の時間が増加し、
　　様々な問題が露呈

職員

本部職員
　磯部　伸之（常勤、兼務）
　荻野　瑠奈（非常勤）

法人職員配置　　令和7年3月31日

役職・職種	本部	一から百まで堂	相談支援〇〇	アトリエハウス
管理者 （常勤）	1	兼務１	兼務１	兼務１
サビ管 （常勤）	ー	兼務１	ー	兼務１
支援員 （常勤）	ー	兼務１	兼務１	兼務３
支援員 （非常勤）	ー	専従４ 兼務４	兼務１	兼務２
調理員	ー	兼務４	ー	専従１
医師・嘱託	ー	1	ー	
看護師 （非常勤）	ー	1	ー	
事務員 （非常勤）	1	ー	ー	

ボランティアや地域の方との協働
生活介護事業が中心となって活動をしてきたが、新規事業の展開で継続が困難な状況である。来年度は、役割を明確にして、各職員のモチベーションが保てる仕組みの構築を急ぎたい。その役割に斎藤奈緒を配置する。

事業活動
一から百まで堂（生活介護）　法人の中心活動として機能している。
新規事業で今までの活動の金継ぎの活動を休止した。

相談支援〇〇（計画相談／児・者）
人材不足で、利用者への対応も新規事業開始後に滞っている。

グループホーム（共同生活援助）
入居したメンバーの心身の健康は想定以上に良好で、この場所に未来の新しい共同の生活の場を見ている。

一方、重点的に職員配置を考えていたが、事前の想定以上に人員の不足感が強い。

ヘルパーステーション（居宅介護事業所）/ガイヘル事業（移動介護）
毎年、課題として挙げているが、今年度も実際の取り組みに至らなかった。
グループホーム事業の開始により、この事業の必要性が強くなった。来年6月に申請、7月開始を見込みたい。

地域連携
新規事業の開始により他事業者から情報共有などの協力を得ている。

法人本部機能
職員の不足と言うより、役割の担い手がキャパオーバーである。
マネージメントの意識を理事長が持つ必要がある。

拠点整備
中央拠点に共同生活援助のサービスが増えている。
相生4ー13ー21

役員会等の状況
（１） 理事会
令和6年4月11日臨時理事会
場　所：社会福祉法人アトリエ本部
参加者：理事5名（内2名ZOOM）、監事1名、その他3名
・新規事業借入について
・耐震改修計画について
・新規事業予算について
・新規事業スケジュールについて
・報告事項　収用証明発行の為の事前協議について

令和6年6月3日定時理事会
場　所：社会福祉法人アトリエ本部
参加者：理事4名、監事2名（内1名ZOOM）、その他2名
・報告事項
　①決算監査報告（活動内容/決算内容等）について
　②理事長より職務執行状況について
・2023（令和5）年度事業報告について
・2023（令和5）年度決算について
・新規事業資金借入について
・講師等への謝金等の支払に関する基準について（講師料規定）
・定時評議員会開催について
・その他

令和6年7月22日みなし決議
　不動産売買契約について
・新規事業（仮称）アトリエハウス物件売買契約について

令和6年9月2日みなし決議
　耐震補強・改修工事請負契約について
・入札により敦賀工務店に発注

令和7年3月14日定時理事会
場　所：社会福祉法人アトリエ本部
参加者：理事6名（内1名ZOOM）、監事2名、その他3名
・2024（令和6）年度補正予算について
・2025（令和7）年度事業計画案について
・2025（令和7）年度予算案について
・就業規則改定（一から百まで堂）
・就業規則改定（アトリエハウス）
・賃金規定改定
・育児介護休業規程改定
・評議員選任委員会へ提案する次期評議員の承認
・次期役員の承諾　理事監事の同意
・経理規程改定
・報告事項
　①新規事業アトリエハウスについて
　②事故報告　その他

（２）評議員会
令和6年6月20日定時評議員会
場　所：社会福祉法人アトリエ本部
参加者：理事2名、監事1名、評議員5名（内1名ZOOM）、その他3名
・計算書類（賃借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
・定款の変更
・社会福祉充実計画の承認
・報告事項
　①2023（令和5）年度事業報告について
　②監査報告について
　③理事長の職務執行について

令和6年9月19日臨時評議員会
場　所：千代田七丁目センター内　喫茶去７
参加者：理事4名、監事1名、評議員5名（内3名ZOOM）、その他1名
・定款変更
・基本財産への抵当権設定
・報告事項

①一から百まで堂運営規程変更について
②金銭消費沈着契約証書について

（３）監事監査

令和6年5月20日定時監事監査
場　所：相談支援〇〇
参加者：理事1名、監事2名
・決算監査

令和6年9月9日定時監事監査
場　所：相談支援〇〇
参加者：理事1名、監事1名
・理事長の業務執行の状況
・生活介護現場の安全
・法人本部業務状況

令和6年12月16日定時監事監査
場　所：相談支援〇〇
参加者：理事1名、監事2名
・理事長の職務執行について
・グループホームの進捗情報等

一から百まで堂活動報告

総括

　2月以降は、新規事業に職員を配置の比重を高めたことからのしわ寄せが生じた。チームとして動く為の課題も出てきている。
作業の安定についても整理していく事もこれからの課題になる。

メンバーについては、ぶつかりながらもお互いを受け入れる関わりや、助け合う場面が増えていて個々の成長が、見られる。

施設

職員体制

常勤
　管理者・施設長　　菅井　恵美（アトリエハウス/相談支援〇〇兼務）
　サービス管理責任者　齋藤　奈緒（アトリエハウス兼務）
　　荘司　吟弥（アトリエハウス兼務）
　　雨宮　由佳　令和7年2月より常勤採用
　　（アトリエハウス兼務）
　非常勤
　支援員　竹島　京子　（調理兼務）
　　齊藤　真奈美（調理兼務/アトリエハウス兼務）
　　髙橋　誠
　　青木　美奈子（調理兼務）
　　松本　英理　（アトリエハウス兼務）
　　松田　昌宏
　　山崎　茂　　（相談支援〇〇兼務）
　　小室　愛　　（調理兼務）
医師　　大村　泰史　（月1回）
看護師　　大久保　友子（月1回）
事務
　非常勤　荻野　瑠奈（請求・会計補佐）

事故

※報告書を確認して、職員間の事故とヒヤリハットの区別があいまいであることが判明。来年度に早急に事故とヒヤリハットの区別を明確化を試みる。

2024年 4月16日　利用者が歩道で電動車いすから落下。体が傾き左半身から前に落ち、顔、左ひじ、左ひざを道路にぶつける。鼻血と唇の血を拭き、止血してから車椅子に乗せる。桜の木の根のせいで道路が盛り上がり割れていた。そこに前輪がはまってしまったの

ではないか。体の傷を確認し、本人が自走できると確認したので一百に戻る。
活動中はフットレスト、ベルトをしてもらい、本人と話し合い安全な策をとっていく必要がある。

2024年 5月16日　送迎終了後、帰所途中、信号無視したバイクが目前で飛び出し急ブレーキにも間に合わずバイク後方のトランクをかすめる。その拍子でバイクが塀に接触する。右足裾が破れ擦り傷をしている様子。車体は前方部に傷。バイク運転手は自分の信号無視を認め警察へ連絡。

2024年 8月 2日　机付きの椅子に座っていた利用者へ雑巾を渡してもらおうと思ったが机付きの椅子に手をつきながら雑巾を渡そうと手をついたが、机の隅に手をついたため椅子が不安定になり転倒する。

2024年 8月28日　職員がラップをかけようとした時、利用者が自主的に一人でラップをかけると言い力が強く入りラップの刃で小指を切ってしまう。

2024年10月 1日　不便利屋の枝豆作業中、利用者が右手の薬指をハサミで切ってしまい出血する。

2024年11月15日　テーブルにいた利用者が椅子から立ち上がる際後ろにバランスを崩し真ん中のテーブルに倒れ、テーブルの足が1本折れ、テーブル下の堀の中に倒れこむ。仙骨上部に赤みは確認できるも痛みの訴えもなかった。

2024年12月23日　セレナの冬用タイヤ交換時ジャッキアップの途中でジャッキが外れ、ディスクブレーキ部分が地面に当たってしまう。
斜面地でジャッキアップを行ったことと、デイズのジャッキを使用してしまったことが原因。

2025年 3月 7日　利用者が実習生に対し問題行動

2025年 3月14日　アトリエハウスにて利用者が食器洗いをしていたところ空き缶の蓋を触ったのを見て職員が声をかけた直後に右手人差し指を切ってしまう。

ひやりはっと

2024年 5月21日　炊飯器から白い煙と焦げ臭いにおいがし、すぐに取り消しボタンと内窯を取り出す。内窯の底に布巾がついており、炊飯器の電熱線で焦げていたことが原因。

2024年5月29日　ご飯の中に小さな石が混入していた。（昼食時に発見）精米時に混入したとおもわれる。米を研ぐ際に気を付ける。

2024年6月11日　レタスの鮮度を保つためにレタスの芯にさしていた爪楊枝の先端を調理中に発見。

2024年6月15日　利用者の財布が紛失。イエローレシート活動時に落とした。財布はイオンで見つかる。

2024年 7月 2日　昼食後、利用者1名、職員1名で庭に出る。利用者が送迎車の方へ行きドアが開いていないことを確認した後、いきなり車道に向かい飛び出す。職員が歩道に戻すがもう一度車道の方に飛び出す。他の職員がきて対応。職員全体で見守り、対応する。

2024年 7月22日　ゴミ出し途中、運転中の運転職員に利用者が肩や首などを強く握る。そのまま走行せず休憩や席の移動をする。

2024年 9月19日　利用者が調理中使用していたオーブンの天板を慌てて取り出す際に肘を当ててしまい、軽い火傷をする。すぐ冷やしたため次の日には問題なし。

2024年10月 2日　不便利屋の枝豆作業中、利用者が作業交代のため場所を移動し、折りたたみ椅子（キャンプ用）に座り、後ろに体重をかけたところ、そのまま後方に転倒（ひっくり返る）幸い地面も柔らかく、バランスをとるようにゆっくり転倒したため、顎を引くことができ後頭部を打つことなく、ケガもなかった。

2024年10月29日　電車で外出時、利用者宅へ迎えに行く。出てくるのを待つが先に外出している可能性も考え近辺を確認。連絡がないか一百にも確認するが連絡なし。家にいた利用者の兄がすでに外出したとのこと。駅にいた利用者を発見。

2024年12月19日　職員がやかんに水をため、点火。コンロ横にあったフライパンの蓋の取手の部分が火にあたり溶ける。

※積極的にヒヤリハットの報告を促しに努めている。

ヒヤリハットなどを通じて職員の意識が変わって以下レポートの提出がサービス管理責任者より提出された。

以下レポート

一百の大事にしていることをどう守る？

●ここの理念を本人、保護者の方に理解してもらうことは必要

●信頼関係はもちろん大事

書類は必要（人の感情は変化するから）視覚的な影響力

特に福祉は、効力がないとしても、記録・書類は大事（日々の記録と同様）

●書面もあてにはならないけど、口頭はもっとあてにならない‥でも、書面で伝える‥堅苦しい感じもする‥かなぁ

なんにしても、ここの理念や方針を伝えるのというのは必要

・ここのやり方は嫌いではないけれど、それぞれの人によって支援の仕方を変えること、一定のラインが全くないのはなかなか難しい

●契約と同じで、方針への理解は伝えておく必要がある

一筆お願いした方がいいのでは？

・ここの良さを理解してはいるけど、どこからどこまで‥の判断が難しい

●ここがどういうところか、伝える必要はある

見守る必要はもちろんあるが、本人の意思を尊重する　という場所であること

●親御さんに口頭で説明、は必要だと思うが、書面にするのは‥表現が曖昧になってしまうのでは？書面にすることで事実として残るが、受け取り方も人によって変わっちゃうのでは？

・危険回避は、人間らしさを奪うかな

●自由とリスクがあることを、親御さんに伝えることは必要　それが書面かどうかは‥わからない

書面を用意すること・明確になることで、考えちゃう親御さんはいるのではないか？

・自由を守るには、職員の意識が大事

（今の状況の共有　朝と帰りに10分ミーティングはどうか？）

●それぞれの自由・権利など一百の理念を大事にしているからこそ、職員が安心して関われる・支援できるようにしたい

そのために理念を回りにどう伝えるべきか？みんなの意見を聞いた（なお）

・（危ないという理由だけで）できることを奪わない　やりたい気持ちを奪わない

・出来る限り自由を尊重

・本来持っている心身の感覚やバランスの維持（五感を大切に）

研修
以下の計画に準じた研修開催や外部研修に参加した。

【職員会議・研修】

会議・研修名	内　容	頻度・時期	参加者
職員会議	職員のシフト、翌月の活動計画 ヒヤリハット、事故報告 利用者の状況等の情報共有	2か月に １回	全職員
新規利用会議 (アセスメント)	新規の利用者の受入れ時に必要な事を話し合います。	随時	施設長 生活支援員
活動確認会議 (デイミーティング)	利用者の希望をくみあげ活動につなげます。	毎日	全員
対応会議 (ケアカンフアレス)	利用者の訴えや生活全般の様子で感じた事を話し合います。	随時 ほぼ毎日	施設長 生活支援員
防災研修	通年ＢＣＰを通じて防災時の対応を考えます。研修では、防災の学びと訓練を行います。	年２回 ４月・９月	全員 消防署員等
虐待防止研修	虐待防止法について理解を深めます。 障害平等研修（ＤＥＴ）など	年１回以上 ９月頃	全職員 有識者
安全管理会議	活動における危険や施設の安全管理などを監査と共にリスクマネジメント	随時 １２月頃	有識者 施設長・役員
感染症対策研修	通年ＢＣＰを通じて、食中毒やウイルス感染等について考えます。研修で感染症などの知識を深めます。	年１回以上 １２月頃	全職員 有識者
外部施設研修	外部施設の視察や研修に参加します。	年２回以上	全職員

・2024年5月21日　「硬い筋肉を柔らかくする方法」

場　所：千代田デイサービス / 参加者：磯部、竹島、松田、髙橋
・2024年5月22日～　「映画鑑賞からの学び」統合失調症に対する支援の学び
場　所：一から百まで堂、相談支援〇〇 / 参加者：全員
・2024年6月9日　「自閉症の人からみた戸惑いと喜び　そしてよきパートナーとは？」
場　所：小田急相模原 / 参加者：磯部、菅井、斎藤な
・2024年6月26日　「アンガーマネジメント・虐待研修」
場　所：一から百まで堂 / 講師：まるさき福祉会　中舘先生
参加者：磯部、菅井、斎藤な、荘司、竹島、髙橋、斎藤ま、青木、松田、荻野
谷内准教授、大瀧、福島、武田ち
・2024年7月3日　「そもそもから始める精神障害の理解と支援」
場　所：一から百まで堂参加者 / 講師：湘南精神保健福祉事務所　長見先生
参加者：磯部、菅井、斎藤な、荘司、竹島、髙橋、斎藤ま、青木、松田、松本
山﨑、荻野
・2024年8月23,26日　「相談支援従事者初任研修講義」
場　所：小田原合同庁舎 / 参加者：山﨑
・2024年9月10日　「相談支援従事者初任者研修共通講義」
場　所：eラーニング / 参加者：山﨑
・2024年9月10日　「重症心身障害児者の「ここち良さ」を目指して　身体のメカニズムと呼吸障害」
場　所：ZOOM / 参加者：荘司
・2024年9月14日　「高次脳機能障害講演会　高次脳機能障害のある方とそのご家族の心のケア」
場　所：　/ 参加者：齋藤ま
・2024年10月2日　「重症心身障害児者の摂食について　障害（児）への食事介助法や口腔ケアについて　児童期における支援の重要性とその介助法など」
場　所：オンライン / 参加者：荘司

・2024年10月4日　「身寄りがなくとも安心して医療や福祉サービスを受けられることを目指して」
場　所：ユニコムプラザさがみはら / 参加者：磯部、菅井、斎藤な
・2024年10月10日　「重症心身障害児者の「ここち良さ」を目指してポジショニング呼吸介助手技
場　所：松が丘園 / 参加者：荘司
・2024年10月12日　「てんかんを学ぼう」
場　所：松が丘園 / 参加者：菅井、髙橋、松本
・2024年10月16日　「重症心身障害児者の摂食について　障害（児）への食事介助法や口腔ケアについて　成人期における支援とその介助法など」
場　所：オンライン / 参加者：荘司
・2024年10月16,17日「相談支援従事者初任者研修演習
場　所：小田原合同庁舎 / 参加者：山﨑

・2024年11月7日　「重症心身障害児者の摂食について　基本的な食事介助法
飲水法、口腔ケア法について
・2024年11月13日　「相談支援従事者初任者研修演習」
場　所：小田原合同庁舎 / 参加者：山﨑
・2024年12月12,13日　「相談支援従事者初任者研修演習」
場　所：小田原合同庁舎 / 参加者：山﨑
・2024年12月18,19日　「サービス児管実践研修」
場　所：ウィリング横浜 / 参加者：山﨑
・2025年1月16,17日　「サービス児管実践研修」
場　所：神奈川県民ホール / 参加者：菅井

外出活動・イベント等

・2024年4月2日　「発達凸凹さんフェスタ」
場所：杜のホール / 販売ブース設置。何組かに分かれ店番やステージ見学
・2024年5月3～5日　「フェイス・オブ・ワンダー展覧会」
場所：相模大野 / 一百メンバー作品展示。2日に分かれお昼ご飯と会場見学
・2024年6月8,9日　「バオバブ販売会」
場所：アリオ橋本 / 一百の商品を販売
・2024年6月11日　「英ちゃん男気食事会」
場所：一百 / 英ちゃんのCDが売れたためOKの食材を買込み豪華ランチ。
午後はビンゴ大会
・2024年7月18,19日　「バオバブ販売会」
場所：相模原市役所 / 一百の商品を販売。2日に分かれ数人で販売会見学
・2024年7月27日　「第一回生葉染め体験」
場所：一百 / 一百で栽培している藍の葉を使用し体験（雨風ふぁ～む共同）
・2024年8月24日　「第二回生葉染め体験」
場所：一百 / 一百で栽培している藍の葉を使用し体験（雨風ふぁ～む共同）
・2024年9月6,7日　「バオバブ販売会」
場所：橋本高校文化祭 / 一百の商品を販売
・2024年9月14日　「けんぷく食堂」
場所：桜美林大学 / 絵を描いたり、歌を歌ったり、皿回しをしたり…
・2024年10月8日　「自分らしく電車旅：Tracing the roots 旅と手仕事展」
場所：代官山ヒルサイドフォーラム / 電車移動で展覧会＆ランチ
・2024年10月9日　「自分らしく電車旅：しげの秀一原画展」
場所：横浜そごう / 電車移動で展覧会＆ランチ
・2024年10月12,13日　「バオバブ販売会」
場所：青山学院大学 / 一百の商品を販売
・2024年10月26日　「松が丘園祭」
場所：松が丘園 / 午前午後に分かれ軽食、コンサート＆よさこい鑑賞
・2024年10月29日　「自分らしく電車旅：たゆたうアート展」
場所：東京黎明アートルーム / 電車移動で展覧会＆ランチ
・2024年12月7日　「イマココマルシェ」
場所：おうちCafe「Brown Rice」 / 一百商品を販売

・2024年12月14日　「しめ縄づくり」
場所：一百 / 雨風ふぁ～む合同で毎年恒例しめ縄づくり
・2024年12月17日　「忘年会＆カラオケ大会」
場所：カラオケバンバン / 英ちゃん考案。お弁当を持ち込みカラオケ大会
・2024年1月24日　「航君アルバム確認観賞会」
場所：一百 / 航君のご両親へプレゼントするアルバム写真をおやつの時間に確認観賞会
・2024年3月30日　「さくら路上アート」
場所：相模原市役所 / 描曜日で描いた作品を販売。即興アートとして淳ちゃんの書道作品制作
・誕生会（ほぼ毎月）
誕生日当日に歌＆その月にスペシャルランチ＆テータイム）
・イエローレシート活動（ほぼ毎月）
イオンで毎月11日に行われているイエローレシートキャンペーンへ数名で活動

実習生等の受入

2024円4月1日～4月25日　：アルファ専門学校（精神保健福祉士）1名
2024年6月17日～6月21日　：中央支援学校　1名
2024年10月21日～10月25日：中央支援学校　1名
2024年11月7日、8日　：弥栄中学校　2名
2024年11月27日～29日　：中央中学校　2名
2025年1月30日～2月7日　：桜美林大学 （社会福祉学専攻）1名

利用者状況報告

集計期間　：令和6年4月1日～令和7年3月31日
集計日　：令和7年3月31日現在（新規契約数：3 名　/　契約終了数 2 名）

契約人数　単位：人

区分	6	5	4	3	合計
男性	6	3	2	1	12
女性	1	3	1	2	7
合計	7	6	3	3	19

利用実績　単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
区分6	173	173	169	154	135	151	158	135	142	132	108	123	1753
区分5	57	51	50	50	39	43	47	46	48	45	73	89	638
区分4	63	69	63	65	55	59	61	57	58	55	42	49	696
区分3	3	9	11	12	7	11	10	16	11	14	33	42	179
計	296	302	293	281	236	264	278	254	259	246	256	303	3266

開所日	25	24	25	26	21	23	26	24	24	23	22	26	289
平均	11.8	12.6	11.7	10.8	11.2	11.5	10.6	10.6	10.8	10.7	11.6	11.7	11.3

就労支援事業

令和６年度　　収入　￥736,317

・ナイアガラタイムス
・不便利屋（不用品販売代行・チラシ配り等）
・藍染め商品・体験（手ぬぐい・ストール、レジン他）/カレンダー・金継ぎ）
・たまご箱（昔の味たまご農場）令和5年3月分の売り上げ以降休止状態
・里芋、枝豆（前原農園）
・他事業所が行っている野菜販売を当庭先でも販売

支出　￥804,996

・工賃/経費等
※工賃金額：1日50円+α

収支が赤字となって次年度は収入を増やさないと現在の工賃を維持ができない。

詳細な金額は、決算報告書参照

相談支援 〇〇活動報告

総括

地域のニーズ調査や地域の他事業者との関係性構築としての機能を担えた。
一方、職員配置が不十分となった。新規事業に人材を取られている。
緊急性がある困難ケースなどには、綱渡り的であるが誠意的に対応ができている。関わると本部業務との兼務することが業務が雑多となって法人の不利益となってしまうケースがあった。

職員体制

常勤
　管理者・相談支援専門員　磯部　伸之
　2月より
　菅井恵美/山﨑茂（兼務）

非常勤
　事務　荻野　瑠奈

利用者状況報告

集計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日
集計日　：令和7年3月31日現在（新規契約数：6名　/　契約終了数：5名）

詳細な金額は、決算報告書参照

アトリエハウス報告

総括　2月に開所して集ったメンバーが朗らかに生活している。
未来に必要な施設で今後もっと地域に増やせるように自法人での設置をはじめ他法人にも、営利ではなく人と人とがしっかりと向き合って生活できるグループホームの経営を提言できる内容と自負する。収支面の課題があり、人材確保には計画性が足りなかった。

施設　生活介護事業所に裏が面した最高の立地であり、元の建物が５LDKと4名の入居と短期入所の指定を得ているので緊急時に受け入れをすることができる。

職員体制

常勤

管理者・施設長	磯部　伸之	（本部/相談支援〇〇兼務）
サービス管理責任者	齋藤　奈緒	（一から百まで堂兼務）
	荘司　吟弥	（一から百まで堂兼務）
	雨宮　由佳	（一から百まで堂兼務）
非常勤	齋藤　真奈美	（一から百まで堂兼務）
	松本　絵里	（一から百まで堂兼務）
	佐藤　紘子	（2025年3月24日辞職）
	萩尾　蘭	（2025年4月15日退職）

ひやりはっと

2025年2月1日　夕食時、利用者がカツを喉に詰まらせる。みぞおちを引き上げ、詰まっていたものを吐き出させる。ハサミ等で小さく切る必要あり。

利用者状況報告

集計期間：令和7年2月1日～令和3年3月31日
集計日　：令和7年3月31日現在

契約人数

区分	6	5	3	合計
男性	1			1
女性	1	1	1	3
合計	2	1	1	4

新規事業としてのマニュアル整備の取組
他の施設での経験を生かして雨宮由佳が以下の書類などを整備した。

・感染症対策マニュアル
・夜勤業務マニュアル
・ハウス業務マニュアル
・利用者療育園持ち物リスト
・塗布薬リスト
・業務の流れ
・曜日毎のやる事リスト
・生活用品リスト

※計画と結果の報告
支出
計画：　合計6,100万円（当初運転資金200万円含み）
結果：　合計7,030万円（固定資産取得支出）

資金調達
計画：　①自己資金：1,380万円
　　②福祉医療機構福祉貸付：4,720万円
結果：　①自己資金：1,952万円
　　②福祉医療機構福祉貸付：5,010万円(290万円増加　建築・備品等）
　　理事会にて予算補正済み
　　③断熱工事助成金：648千円

スケジュール
開所
計画：令和6年10月
結果：令和7年2月

収支としては、計画を上回る支出があり、借入金と自己資金が大きくなった。

事業収入も4か月分の開所の遅れがあった為に計画よりも減った。

全ての予算は、3月の定時理事会にて補正済み

詳細な金額は、決算報告書参照